

# “時事英語—アフリカと日本の絆”通信

NO. 9

2021年5月20日発行

NPO 法人 時事英語—アフリカ  
と日本の絆(CCAJ)

<http://jijieigo-ccaj.or.jp/>

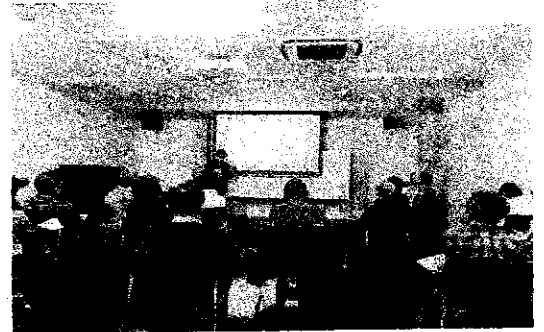
☎ 042-531-18

\* 武内進一教授 (東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター長) の公開講座から

\* ベンジャミン・マイアングワ博士著「ナイジェリア・カデウナ州における平和構築について」から \* 次回は、外大のアフリカ留学生、ロドリグさんのお話しをご紹介予定

## 1: 武内進一教授の公開講座「アフリカの今を知る～Black Lives Matter 運動とアフリカの政治情～」 9 カ月

おくれで、3月27日(土)に無事開催されました。コロナ対策を最重要視した結果、時間短縮等先生や参加者の方々には、大変なご不自由をおかけしましたが、内容の濃い御講座のメッセージで、さらに定員オーバーの中、アンケート等も好評だったことは、会員にとっても今後の大きな励みになりました。全会員、関係者の方々への感謝の念を深くいたしております。御講座の内容は、タイム誌とアメリカの pbs で時事英語学習を長年続けております私達にとって、研究者の高い視点と、現実の社会との接点の取り方が、非常に参考になったように思います。つぎの2点にまとめてみました。なお、この通信紙の裏面に、2人の会員のレポートもご紹介させていただきますので参考にしてください。



武内進一教授の講座

① 黒人問題をアメリカの南北戦争以前から取り上げておいでになり、もともとは黒人問題も、経済構造の一部であったこと、社会の変化を図る尺度が、どれだけ庶民の意識の変化で実現できるかという点に基づいていることの発見。② アメリカでおきた、黒人解放運動が、時を経て(1968年)、アフリカのコンゴで再燃というか再生したという歴史の中に、人間の課題が地球規模で学び、育つものだという事を肌で感じる事ができたこと。



左上の写真:マイアングワ博士の著書

2: ベンジャミン・マイアングワ博士の著書「ナイジェリア・カデウナの平和構築について」 私達の会の生みの親、ベンジャミン・マイアングワ博士の著書から、私達が学んだ事をご紹介したいと思います。まず、博士が柴崎学習においでになったのは、2012年、学習館もまだ古い建物でしたし、博士も私達にとっては、まだ若いアフリカの、笑顔のかわいい青年に見えたものです。現在カナダのマニトバ大学で教鞭をとっていらっしゃいますが、この御本は今回学位論文で、権威ある組織から受賞をなさり、各方面のメディアからもインタビューを受けられたようです。ビデオを you-tube で送って下さいました現在月一回、zoom で、情報交換など、会員と共に友情をはぐくんでおります。さて、御本の題は、“The Crisis Of Belonging And Ethnographies Of Peacebuilding In Kaduna State, Nigeria”です、



左下:ロドリグさんのギター

訳書がないので、原題でご紹介させていただきました。ナイジェリアの中部・北西部の町、紛争地帯で有名カドゥナを舞台にした、平和構築についてのお話しです。ここでも紙面の関係上、次の3点にまとめたいと思います。①: 100以上の部族からなる地域での話です。牧畜を主産業とし、植民地の経験から、複雑な土地をめぐる紛争が難題。博士は、部族の伝統的な知恵を活かした現代社会のシステムを考える事は、世界の他の紛争解決にも優れたヒントになると主張。②: 最近注目されている「多様性」の力をここに感じます。③: ここで言われる部族の知恵の参加の意義は、私達にとっては、「市民」の力の再認識へと、自分たちへの繋がりをも感じています。3: ロドリグさんは、アフリカブルンジのご出身。武内進一教授関係のクラウド募金で、2019年に初めて来日し、柴崎学習館と西砂児童館で、得意のギターと歌で、地域の子供達や市民を魅惑しました。帰国なさってからは、美味しいブルンジの紅茶をおくってください、そのおいしさが忘れられません。現在東京外国語大学の修士課程で勉強中です。次回はロドリグさんの故郷のお話しを楽しみにして下さい。